



川名ひろあき県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話043(227)7411



令和3年度・県政報告

道路整備に全力

○国道410号久留里馬来田バイパス



国道410号 久留里馬来田バイパス

令和5年に供用

君津市選出の川名寛章県議の令和3年度・県政報告をお届けします。連続7期の川名県議は、君津市民はもとより、県民の安全・安心を守り、明日への発展を期す政策を力強く推し進めています。特に、通勤通学、物流、観光から緊急時の物資輸送などに直結する道路問題は、もちろん、小糸川の整備、更には港湾整備、交通安全施設、そして君津市の将来を導く「総合計画」策定に参画するなど八面六臂の活躍ぶりです。今回は、その一端をご紹介します。

国道410号は、館山市北条を起点に、木更津市の国道16号長須賀交差点を終点とする総延長13.2kmの般国道です。

房総半島のほぼ中央部分を南北に縦断する国道で、千葉県中央地域と南房総地域を結び、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)や東京湾アクアラインと体となって道路ネットワークを構成し、

架け替えなどが計画され、工事が進んできました。

※ 前号でもご紹介しました

が、国道410号久留里馬来田バイパスは、圏央道木更津東インターチェンジから南房総地域へのアクセス強化を図るため、君津市広岡から袖ヶ浦市高谷間15.7kmで進められています。

196億円の総事業費で、昭和60年度(令和5年度)の全体計画です。これまでに12.2kmが完成しています。

君津土木事務所では、君津市広岡から向郷までの残り3.5km区間のうち、芋窪では橋梁(4号橋)工事を進めており、令和5年度の供用を目指し、全線での道路改良工事を進めています。



君津市芋窪で進む国道410号の橋脚工事(4号橋)

ス向上を図り、安全で円滑な交通確保を図ることを目的に工事を進めています。君津市黄和畑での拡幅事業は、平成21年度から令和5年度までの全体計画で、延長2,100m、幅員6.1m(部10m)、事業費34億8千万円。既に前倒しして部分供用した600mを含む1,700mが完成しています。

残る400m区間のうち、蔵玉トンネルの拡幅工事は、令和4年度の完成を目指し、通行車両の安全を確保しながら工事を進め、その他の区間については、早期供用を目指して道路改良工事を進めている、ということです。



令和4年度完成を目指して進む 国道465号蔵玉トンネル拡張工事

国道465号 黄和畑拡張工事

蔵玉トンネル4年度完成

一般国道465号は、茂原市を起点にすみ市、君津市を経て富津市の終点に至る延長約75kmの幹線道路で、緊急輸送道路に指定されています。

平成25年に開通した木更津東インターから東金ジャンクションに至る首都圏中央連絡自動車道(圏央道)と並行するように、房総半島のほぼ中央部を東西に横断しています。

主に房総の山間地を通るため、道幅が狭く、急カーブが連続し、トンネルも多いことから大型車等のすれ違いが困難な箇所があり、特に観光シーズンでは、大型観光バスの通行が増え、渋滞が多く発生しています。

このため君津土木事務所では、幅員狭小区間や線形不良箇所を解消し、緊急輸送道路としての機能確保や、周辺観光や南房総へのアクセ

●県政や君津市のご相談、ご意見をお聞かせください

川名ひろあき 県事務所

〒299-1152 君津市久保3-11-4 TEL.0439-57-0105

港湾整備で国に要望

要望をWEB形式で提出する川名県議



「千葉県議会港湾整備振興推進議員連盟」の川名寛章会長は令和3年8月28

振興議員連盟の川名会長

小糸川の河道内で進む堆積土砂の撤去



市民の要望に対応

小糸川の整備

千葉県には多くの河川がありますが、一級河川である利根川に次いで長いのが君津市を流れる二級河川、小櫃川で延長88kmあります。

小櫃川に次いで長い川が、二級河川、小糸川で、延長80km、流域面積148平方km。小櫃川と同じく清澄山に連なる房総丘陵を源とし、上流の山間部と中流の丘陵地帯を蛇行しながら北に向かい、途中で西向きを変えて君津市内を抜け、東京湾に注ぎます。

山間部を蛇行しながら流れ、中流域では特に川幅が狭いことから水を流す能力が不足しており、更に岸辺の竹などの繁茂によって水の流れが阻まれて過去に何度も洪水が発生しています。

中流域の「流下能力」不足が治水の課題となっていました。河に土砂の堆積が著しく、水流の阻害や水質悪化、外来植物の繁茂等が懸念される場合は、管理者である県は、河を浚渫しなくてはなりません。

そこで、川名県議は、君津市民から要望の強かった小糸川河川内の整備を要望したところ、次のような回答がありました。

①県では、河道内に堆積する土砂や繁茂する竹にたいして、令和2年度に創設された「河川機能の維持に努めてまいります」。

日、「令和3年度千葉県港湾整備促進協議会」(高松利明会長)の総会で決議された千葉県港湾、海岸の整備・振興に関する要望・決議書を、船橋市の松戸市長とともに国土交通省や千葉県選出の国会議員に提出しました。新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、WEB形式で実施されました。

国土交通省では、小林茂樹・大臣政務官、浅輪宇充・港湾局長に、令和4年度から国の直轄事業として、千葉県海岸船舶地区の保全施設の整備促進を強く要望しました。

要望・決議は、次のとおりです。

- ①大規模地震、津波・高潮への防災力強化を図ること
- ②地域を支える物流機能の充実強化及び海上交通施設の整備促進を図ること
- ③銚子沖洋上風力発電事業の導入に際してメンテナンス等の利用が見込まれること

- ④港湾・海岸施設の適正な維持管理の促進を図ること
- ⑤賑わいのある水際の創出及び市民の憩いの場としての木更津港湾緑地及び船溜まりの整備促進を図ること
- ⑥産業の国際競争力強化を図るため、国際バルク戦略港湾に選定された木更津港で、最大級の輸送船

君津市制50年 総合計画を審議

君津市選出の川名寛章県議は、知識経験を有する者として、君津市総合建設審議会委員に委嘱されています。その君津市が、令和3年(2021年)に市制施行50周年という大きな節目を迎えるに当たり、新たなまちづくりの羅針盤として「総合計画」を策定することになり、令和3年4月にたつき台が審議会に示されました。次いで、8月に「基本構想」案が諮問され、同

月に審議会から市長に答申されました。君津市では、策定の趣旨として次の様に説明しています。

「君津市の人口の実情、次期総合戦略における将来人口などを踏まえると、現時点での将来人口9万人は達成困難な状況です。また、令和2年の台風15号・19号及び10月の大雨による災害を教訓とし、災害に強いまちづくりに取り組むことが早期に求められる中、改めて本市の将来ビジョンを描き直す必要があります。2021年に市制50周年を迎え、次なる50年に向けて大きな一歩を踏み出すに当たって、新たな総合計画を策定します」

新総合計画は、将来の都市像やまちづくりの方向性などを示す「基本構想」と、基本構想を実現させるための重点戦略プロジェクト、分野ごとの施策、指標、目標

重要性増す交通安全施設 協同組合が要望

これは、6月に八街市で起きた飲酒運転による児童の痛ましい死亡事故で、子供たちの命を守る交通安全対策が一層重要になったことから、この日の要望となりました。

川名寛章県議が顧問を務める千葉県交通安全施設業協同組合(増田孝理事長)の代表らは令和3年11月26日、千葉県議会に信田光保議長を訪ね、交通安全施設に関する陳情・要望書を手渡しました。

なお、同組合では毎年、県管理道路のカーブミラー清掃など継続的な地域貢献活動に合わせ、道路標識の点検診断結果を千葉県と各土木事務所へ報告しています。

●基本構想Ⅱ令和4年(2022)～同12年度(2030) 計画期間9年
●基本計画Ⅰ前期5年間・令和4年(2022)～令和8年度(2026) 後期4年間・令和9年(2027)～令和12年度(2030)
●実施計画Ⅱ単年度ごと
なお、令和4年2月「前期基本計画案が諮問され、同月に審議会から市長に答申されました」